

I-3 七ヶ浜町花洲浜

2012年11月11日(日)

| | | | |
|-------|-------|----------------------|----|
| 報告者名 | 兼城 糸絵 | 被調査者生年 | なし |
| 調査者名 | 川村 清志 | 被調査者属性 | なし |
| 補助調査者 | 兼城 糸絵 | (参与観察調査のため被調査者の情報なし) | |

2012年11月11日に七ヶ浜町花洲浜の鼻節神社において「御例祭」と「御神馬様渡御」が行われた。以下はその観察記録である。

行事の流れ

行事は氏子青年会を中心にして行われた。まず、彼らは朝8時頃に鼻節神社に集合し、出発式を行ったという。調査者たちが9時頃に到着した時には、ちょうど神社から神馬を載せた軽トラックが出発するところであった。すぐにそこにいた青年会の方に挨拶をし、行列に同行させてもらうことになった。

行列は3台の軽トラックから構成されていた。先頭をスピーカーがとりつけられた軽トラックが走り、続けて祭壇等を載せた軽トラックが走り、そしてその後ろを神馬像と賽銭箱を載せた軽トラックが続いた。その更に後ろには柏木神社の宮司を乗せた車が走り、集落内を巡行していった。行事を実施するにあたっては、氏子総代会と氏子青年会が連名で集落内に「お知らせ」を配布しており、それを見れば大体何時頃にどこその場所へオジメサマが巡行するのがわかるようになっていた。その「お知らせ」に記載されていたスケジュールは以下の通りである。

9:00 神社鳥居出発
9:05 山ノ神通り
9:10 国際村仮設住宅
9:30 消防署向仮設住宅
9:50 七中隣仮設住宅
10:10 三月田ゲートボール場
10:20 同性寺通り
10:40 天神堂上駐車場
11:00 観音堂の通り
11:20 A氏宅駐車場
11:40 T氏宅通り
12:00 神社鳥居

鳥居を出発した後、9時15分には国際村の近くに作られた仮設住宅へ到着した。駐車場に車を止めると、氏子青年会のメンバーが祭壇を軽トラックからおろして供物を並べていった。神馬像を載せた軽トラックは、祭壇の前の方に止められた。銅製の神馬像の首には鈴がつけられており、その手前には賽銭箱と太鼓がおかれていた。神馬像の到着を待ち構えていた花洲浜出身の住民たちは、青年会の人々に対して「ご苦労様」とねぎらいながら、「オジメサマ(御神馬様)がやってきた」と神馬像に近づいていった。そして、首にかかった鈴を鳴らし、賽銭箱に金を入れ、それぞれ手を合わせて神馬を拝んでいた。青年会の方々によると、例えば足が悪い人がオジメサマの足を擦るとそれが治るとされているようであり、実際高齢者を中心にオジメサマの足や体を擦る者が多かった。参拝者の多くは女性を中心とした高齢者であり、オジメサマがやってくるのを心待ちにしていたようであった。



写真1 神馬を載せた軽トラック



写真2 祈祷の様子



写真3 神馬をなでる人々

祭壇の準備が整うと、宮司による祈祷が始まる。祭壇には鯛と大根などの根菜類が三宝にのせて供えられ、その脇には神酒が置かれていた。青年会の方々が参拝者を集めて祭壇の前に並ぶように促し、御祈祷が始められた。御祈祷が終わると、青年会の方々が参加者に神酒をふるまい、飴等を配り始めた。神酒は出発の際に宮司に祈祷をしてもらったといい、「縁起物だから飲んでける」と皆に話していた。傍らでは、鼻節神社のお守りも販売していた。お守りはひとつ500円であり、健康祈願や学業成就に加え、恋愛成就のお守りも置いてあった。それ以外にも、神社の札も配布するとのことであったが、それは氏子青年会の方々がもう一組グループを作って、巡行するグループとは別に各戸を直接訪問していくということであった。青年会の方々も仮設住宅に住んでいる方々も久しぶりに会う人が多かったようで、時折青年会の方が「花洲浜は津波にも負けないから！復活するからな！」と大声で呼びかけている姿が印象的であった。

国際村隣の仮設住宅を出ると、次の目的地である消防署向仮設住宅へと向かった。そこでも、やはり多くの住民がオジメサマを待っていた。神馬が到着すると、人々は次々とオジメサマに向かって拝んだり撫でたりした後に、宮司から御祈祷を受けた。子どもたちにはお菓子や風船が配られていた。青年会の方によると、もともと子どもたちが参加しやすいように、と神馬渡御を日曜日に開催するようになってきたという。しかし、生憎この日は七ヶ浜町で子ども綱引きというイベントが模様されていたらしく、子どもたちが少ないと話していた。

消防署向仮設住宅を出発した後は、七中隣仮設住宅へと移動した。七中とは七ヶ浜中学校のことであり、震災時に校舎が損壊したため現在は使われておらず、生徒はプレハブにて授業を受けているのだという。仮設住宅は、七ヶ浜中学校の隣に建てられている。そこでも同様に多くの方々が神馬の到着を待っていた。

その後、祈祷等を終えた一行は仮設住宅を後にし、集落の方へと巡行していった。列の先頭にはオジメサマの到来を知らせるアナウンスが流れているため、それを聞いて道路に出てくる者も多かった。その度に行列をストップ

させながら、ゆっくり巡行していった。そして、上掲のスケジュールにあるポイントごとに車を停めて祭壇をしつらえ、宮司による御祈祷を行っていった。時に、住民の方から一升瓶の寄付等も行われていた。

青年会の方々の話によると、元々は車がついた台車があり、その上に神馬を載せて引っ張って巡行していたという。その後、それらを軽トラックの上に載せて巡行するというように変わっていった。台車は遠藤工務店にお願いして作成してもらい、保管料も支払う代わりにその倉庫で保管してもらっていたという。ところが、震災時に押し寄せた津波によって工務店ともども流されてしまったため、現在は直接トラックの荷台に載せているのだという。

一方、11時より氏子総代会を中心としたメンバーによって鼻節神社にて例祭が行われた。そこへは、柏木神社より女性宮司が2人参加して行われ、元々オジメサマに同行していたかなぎ町内会のメンバーもそこへ移動した。調査者らは、そのままオジメサマ巡行に同行し、最終的に12時頃に神社へと戻ってきた。オジメサマを載せた軽トラックは、そのまま表参道へと入っていき、そこからオジメサマが普段納められている神殿前まで直接乗り入れていた。そこから、氏子青年会の皆さんが6~7人がかりでオジメサマを元通りに納め直していた。使用した道具類は社務所に納めるなどして、皆で協力して片付けを行った。最後にかなぎ町内会のメンバーや調査者らも含めて直会を行い、すべての日程が終了した。